



おちほ

第87号 平成29年3月25日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 太田 正 則
TEL 0748-77-2299 FAX 0748-77-5588 <http://ochiho.noor.jp/>

「鬼は～外、福は～内」



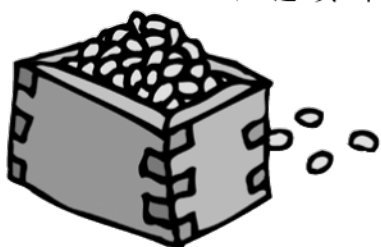
二月三日は節分！という事で落穂寮でも節分を行いました。

施設内でのんびりと過ごしているところに突如鬼が落穂寮に現れました。年男だった利用者さんは袴を着て豆まきの中心になって鬼を目掛けてエイッ！！他の利用者さんも皆、福が来るように升に入った沢山の豆を鬼に目掛けて一生懸命投げておられました。中にはこっそりと豆を投げる前に食べる人も…。



豆まきの後はおやつに恵方巻きに見立てたロールケーキを利用者さん皆で美味しそうに召し上がっておられました。

節分の豆まきには邪気を払い無病息災を願う意味が込められています。今年一年利用者、職員共に健康に過ごせるようにしたいと思います！



グッギング村の作家たち

理事長 山下陽一

精神障がいを持つ人たちの創作

二〇一六年九月末、ウィーンへ旅行した際、グッギング村を訪問してきました。事前にグッギングギャラーのホームページにアクセスして、代表をしておられる画家で精神科医のファイラッハー博士に訪問したい旨のメールを入れました。先生は「第二なかよし」

の沢田さんの作品を直接ご覧になっていたので、そのようなことも関係したのか、まもなく返信のメールが届きました。見ず知らずの私にわざわざ「あいにく外国に出ている、お会いできないが、ギャラーの受付係に参考資料を渡すようにしておくから、訪ねてきなさい。」ということ。

グッギング村へはウィーンからハイリゲンシュタット(クラシック音楽の好きな人はよくご存知でしょう)まで地下鉄で行き、バスに乗り継いでほぼ三〇分マリア・グッギング村に到着します。低い丘陵地なのですが、ギャラーまでの通り道の入口右側に科学技術研究センターの施設が建てられています。そこから坂を少し上ると造成地に建物を数棟配置してある施設に入ります。ギャラーは早朝でもあったので職員も見学者もまだ誰もいません。しばらくすると、女性職員が来られ、先生からのメールと日本からやって来た

事情を話すと親切に対応して頂き、無料で入館チケットを受け取りました。ギャラーのピロティは受付と図書や写真集のミュージアムショップになっていました。

グッギングの歴史

創立は一八八五年にさかのぼるのですが、修道院用地における精神科の療養クリニックから始まります。

一九五四年、精神科医で著述家のレオ・ナブラチル氏が回復期の患者の療養として、描画テストによる診断を目的に始められました。特に彼らの独自の表現力に注目し、最終的には芸術精神療法へと発展するきっかけを与えました。後にフランスのジャン・デュブツフェのオール・プリユットの活動に呼応することとなりドイツにおける拠点としての地位を占めています。このクリニックを利用している人たちの制作した作品は、人の生活の最も奥深いところにある「いのち」のほとばしりが表現されていることに気付いたのです。いわば、自己の内的生命を作り出す行為でもいうのでしょうか、その創作は今日まで積み重ねてき芸術において、伝統的枠組みから飛び出した様式での創作が私たちの前に表現されているのです。しかも、環境による影響を最小

限に、制作者の自発的で独自の表現は多くの人々に驚きを与えました。まさに表現芸術の概念が拡張されたといえるものでした。

奇をてらうものとしてビジュアル・スキヤンダルの表現が横行していても、それはいわば「ハツと見ショック」はあるものの、すぐに慢性化して流行が廃れて行くように、世の中から次第に忘れられ消え去るものもあります。グッギングで辛抱強く支援が積み重ねられました。その結果、完成度の高い独特な表現作品が創作されました。

病理性と愛嬌ある野生味

グッギング訪問に当たって、私たちが長年取り組んできた「土と色展」を紹介するつもりで、京都展三回分を報告した既刊の薄い図録三冊を持参しました。そのお返しでしょうか三冊の分厚い図録のプレゼントを受け、持ち帰りました。おかげでスツケースのキヤスターが壊れてしまうほどの重さです。帰国後しばらくして美術館のキュレーターにこの図録を紹介しましたが、ドイツ語とその英訳の論文が掲載され、水準の高い図録になっていて、これほどのものはとても作れない、ということでした。

この図録を知り合いの日本画家や施設で創作を指導していた人たちに見せたのですが、彼女曰く、ページを繰って見入っていると次第に緊張感が増してくる、というのです。私もまさにそれを感じていて、「土と色展」の図録とグッギングの作品群について受ける

感動の差は一体何か？この感覚はどこからくるのだろうか？思っていました。

図録をめくるうちに次第に判ってきたのですが、グッギングの作品の精緻で時に過剰にリアルな作品の醸し出す独特な雰囲気は圧倒されます。適当なたとえが見付かりませんが、ちょうど痒い所に手が届かないあのイライラ感に似て、「居たたまれない感」というのでしょいかそんな風にも思いました。作品を見ていると痒くなるというわけではないのですが、ストンと滑らかに腑に落ちぬ感覚というか、ちょうど潜水艦の狭い空間で非常事態の赤い照明ランプの中に居るときの緊張感のような、早くその場を切り上げてしまいたいといった感じです。精神医療の専門家はこの作品から作者の状態を読み解き治療の効果と結果を診断するのだらうと思います。

一方、薄い冊子の「土と色展」の作品群はゆるいホッコリした感じが滲み出ています。それらの作品は、おそれから時にユーモラスであったり、野性味たっぷりの愛嬌ある作風なのです。それが緊張して生活しているストレス社会のささくれ立つ人々に、一服の清涼剤に似た癒しを与えています。

緊張感のある作品群と野性味ある作品群の両者は真逆に作用しているようですが、いずれも作者の生活の根源から発しているエネルギーを象徴しています。その波動がじわじわと伝わってくることに気付いたのは、その人たちの周りで一緒に生活していた人たちの発見でした。

(二〇一七・二・一七)



寮長 太田 正 則

いつもお世話になりありがとうございます。本年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

昨年の「今年の漢字」は『金』でした。良い印象としてはリオオリンピックの金メダルラッシュで、その中でも伊調選手の四連覇は、十二年という年月の間、ただひたすら自分との闘いの日々だったことを思うと、並大抵の努力では到達できない偉業で、まさに超人といえるでしょう。

一方、悪い印象としては、お金絡みの事でした。前東京都知事の一連の疑惑、金融政策に伴うマイナスイタ利、市議会議員の政務活動費問題。そして、これから良い方に向かうのか悪い方に向かうのか今のところ未知数の、超大国の大統領選挙に当選された金髪の御仁。その方が一貫して主張されているのは自国民最優先の政策です。そこには現代社会を形成してきた歴史も、各国の物理的環境も、人類が悪化をもたらししている自然環境も、どれも全く考慮されておられません（この原稿を書いていく時点においては）。都合なことに目を閉じ、利益をもたらしえないものは排除し、害（御仁の主観的視点）

をもたらしそうなものから隔離する。価値観を共有できないものは相手にしない。これまでの報道からそんな印象を受けているのは私だけでしょうか。昨年、日本において障

がいを持つ人やその関係者にとって、大変衝撃的な事件が起きました。その加害者もまた己を最優先にした考え方で犯行におよびました。どちらでも、そこから生まれてくるのは「孤立」ではないでしょうか。江戸時代、限られた国との貿易しか認めなかったままの日本だったら、今の日本の発展はなかったでしょう。いろんな人のいろんな考え方、いろんな国のいろんな文化、たくさんの方の豊かに観に触れることで、人の心が豊かになる。比べることの無意味さ、競い合うことの愚かさ。そして私たちが関わっている、生まれながらにしてその豊かさを持った彼ら。世間のいろいろな出来事の対極に位置する彼らは、しかしその影響を一番に受けやすい人たちでもあります。超大国の大統領になられる方ですので、私なんかの頭では到底及びもつかない次元で物事を考えておられると思いますので、取り越し苦労だとは思いますが、近いうちに、世界中の社会的弱者といわれる人々が、安心して過ごせる内容のツイートを読みたいものです（因みにツイッターはしていませんが）。

無関心の代償

この年末年始、有川浩さんの「図書館戦争」シリーズを読みました。はその内容は、『政府が、公序良俗を乱し人権を侵害する表現を取り締まる法律として「メディア美化法」を成立させ、あらゆるメディアの良化を目指して「検閲」を合法化し、公序良俗に反する書籍・映像作品・音楽作品を取り締まり、マスコミに対する放送禁止命令やインターネットプロバイダーに対する削除命令などでマスメディアを取り締まるなどを行っていた。一方、それに対抗して言論の自由を守るべく「図書館の自由に関する宣言（これは実存する日本図書館協会の綱領）」を根拠に公共図書館が自衛隊並の防衛力で立ち向かい、すべての個人が持つ権利を守ろう」とするフィクション作品です。

この物語は、「検閲」によって「憲法に定められた人権の尊重が大きく損なわれる」という実感を日常生活で味わうことがないがために、国民の反対する声が広がらず、知らず知らずのうちに「メディア美化法」が成立し、生活のしづらさを実感したときには、「時既におそし」となり、一度手放した権利をもう一度取り戻すことの困難さに気付かせてくれます。つまり、権利を守ることに鈍感であってはならないという事です。また「検閲」の判断基準となる「公序良俗を乱す表現」や「人権を侵害する表現」は、虐待や差別が

疑われるケースのそれと似ていて、明らかな事象は別として個々のケースごとに判断が異なり、一定の基準で決められるものではありません。その場にいる一人ひとりが自分の事として感じ、考えるものであるという事を伝えています。

また、一月二十九日の天声人語では、『ユダヤ人言語学者ビクトール・クレンペラーの日記にナチス政権下での迫害がじわじわと進む様が綴られている。：「普段まともな考えをする多くの者が内政の不公平さに鈍感になり：」との記述もある。：多くの人が傍観を続けたことが事態を少しづつ悪化させていった：自分のことではないがゆえの鈍感さが、最後は社会全体を窒息させる。（：は省略部分）と掲載されていました。前号にも書きましたが、障害者虐待防止法や障害者差別解消法が施行されました。しかし、多くの方には関係のない法律と感じられているのではないのでしょうか。ラストベルトの人たちのように自ら声をあげられる人たちではありません。障がい児・者も高齢者も、声を上げられない支援度の高い方ほど一か所ですら、皆さんが身近に感じられることはありません。一人ひとりが自分の事のように感じ、いろんな人の生きづらさを聞くことで、見えなかったものに気付いていただけよう、私たち関係者（代弁者）が発信しなければならぬと感じています。

クリスマス会



▲骨付きチキンをガブリ!!



▲流行の「恋ダンス」



▲プレゼントの中身は何か?



▲おやつはケーキ

12月23日。今年も落穂寮にサンタクロースがやってきました!今年のクリスマス会は豪華なランチでスタート!普段とはちがう場所で:ちがう雰囲気の中、大きな骨付きチキンにみんなかぶりつき、前菜やパンやスープなど目移りするくらいのごちそうを机に並べて美味しく頂きました。お腹いっぱいになった後は、湖南ワークシヨップの皆さんによるパフォーマンスや職員によるダンスや手品。みなさん一緒にステージに上がり楽しんでいました。そして、おやつにクリスマスケーキをあつという間に完食。最後にみなさんお待ちかねのサンタクロースから一人一人名前を呼ばれクリスマスプレゼントをもらって、笑顔で幸せいっぱいの表情でした!きつと来年もサンタクロースがみなさんの素敵な笑顔を見にプレゼントを持って来てくれることでしょう!

お ち ほ 男子棟 親子旅行 to 雄琴温泉 湯元館



今年の男子棟親子旅行は、『雄琴温泉 湯元館』へ。

朝食を食べ終わった方から、着替えを始めると、みなさんソワソワ。ご家族が来寮されると、もう喜びを隠せずに、テンションアップ!!

大型の観光バス2台で、『雄琴温泉 湯元館』に向け出発!

ご家族とお喋りや、窓から外を眺めて楽しむ等、皆さんバスの中で楽しい時間を過ごしました。

『雄琴温泉 湯元館』の大宴会場には、すでに豪華な懐石料理が並んでおり、競うように席に



着くと、もう待ちきれずに、けたstの『頂きます!』で昼食開始。

お刺身、てんぷらやお肉をおなかいっぱい食べた後で出てきたデザートはもちろん別腹(笑)

今年もご参加いただきましたご家族様、ありがとうございました。

女子棟 親子旅行

今年の勤労感謝の日は少し肌寒い一日となりました

が、当日はお天気にも恵まれ琵琶湖の景色も清々しく望める中、

近江八幡の国民休暇村にて女子棟親子旅行が開催されました。ご家族の方も落穂寮まで出向いて下さり、みんなでバスに乗り込み和気藹々と少しばかりのドライブを楽しみました。

休暇村に到着すると、先に現地に着用されているご家族の方が私たちを暖かく迎えてくださり、久しぶりの再会に利用者の方の皆さんもとても嬉



しそくにされています。会場には皆で食事を楽しめるよ

うにと、休暇村の方々が美味しい懐石料理をたくさんご利用して下さりました。利用者さんは落穂寮のご飯も大好きですが、今日は普段あまり食べられない機会も少ない近江牛や新鮮なお刺身などの料理を大

好きな家族と一緒に囲みながらの食事ですから、普段あまり味わえない御馳走に舌鼓を打たれたと思います。食事の後には、ご家族との楽しい時間を過ごさ

れ、今回残念ながらご利用者さんも、担任や職員と敷地内や琵琶湖畔を散策したりと、それぞれ有意義な時間を過ごされました。





< 14 班 >
琵琶湖
国定公園



< 13 班 >
キャンプ



< 3 班 >
姫路
セントラル
パーク



< 1 班 >
エキスポ
シティ



< 2 班 >
ローザンベリー
和田山



リフレッシュ



< 15 班 >
あいきよ
うの森



旅



行



< 4 班 >
山中温泉



< 11 班 >
おたべ
&
錦市場



< 5 班 >
おさかな街



< 16 班 >
京都鉄道
博物館



< 10 班 >
びわこ
湖水浴



2016



< 6 班 >
こんぜの里



< 7 班 >
松田聖子
コンサート



< 17 班 >
モクモク
ファーム



< 18 班 >
伏見稲荷
&
京都水族館



< 12 班 >
おかんと
いっしょ



< 9 班 >
ディズニ
ライブ!



< 8 班 >
なぎさ
公園



待ちに待ったマラソン大会



ここ数年雨にたたられませんでした、2年ぶりの開催です！ついに待ちに待ったマラソン大会が開かれました。

当日はとても寒かったですが、朝になって見事に晴れ、まさにマラソン日和となりました。しかし、皆さんがゴールする時間帯になるとポツポツと雨が降ってきて、ゴールするころには雨宿りしないといけない状態に！

雨のため、グラウンドでの他施設合同の昼食というのはいけませんでしたが、来年こそは天気になれ！



〈物品の寄付〉

- 原田 隆和
- 小林 正明
- 坂本フミ江
- 信基金属
- 山本 里子
- 生命保険協会滋賀県協会
- 平岩 美晴

〈寄贈〉

河本文教福祉振興会

「トヨタ レジアスエース」

ありがとうございました。

(敬称略)

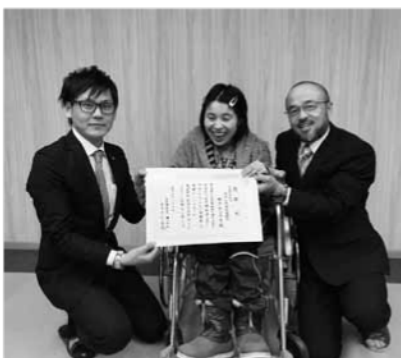


ありがとうございます

社会福祉法人権の木会及び落穂寮の運営にご協力いただいた方に、この場を借りて御礼申し上げます。

今後も変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

平成29年1月末現在



泉

今年の冬はともても寒く、数年ぶりに本格的に雪も積もりまし

た。世間ではインフルエンザが猛威を振るい、滋賀県内の学校では学級閉鎖が相次いだとのことです。が、このまま落穂寮は無事に今年度を終えられそうです。あともう一息、頑張っていきたいと思えます。さて、ここ数年、介護施設での火災による悲惨な事件が続いたことから、施設へのスプリンクラーの設置が消防法により義務付けられました。当然、落穂寮も例外ではありません。来年度中には完成するよう、工事がスタートする予定です。利用者さんが生活を送りながらの工事になり、職員は戦々恐々としていますが、安全のためには仕方ありません。なんとか工夫をしながら、乗り切っていけたらと考えています。

木言

伸びる伸びる
上に上に
広がる広がる
横に横に
見えないところで
下に下に
根が支えている